



甲州市



山梨市



笛吹市

葡萄畑の絶景に出会う旅

*Koshu
Yamanashi
Fuefuki*

日本遺産
葡萄畑が織りなす風景
山梨県峡東地域



JAPAN HERITAGE
日本遺産

日本遺産とは？

地域の歴史的魅力や特色を通じて、わが国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、有形・無形のさまざまな文化財群の魅力在国内外へ発信する取り組み。「葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—」は平成30年度の認定。



峡東地域
ワインリゾート
推進協議会



ぶどうを手にした大善寺の薬師如来像。5年に1度のご開帳でお姿を拝むことができます(今回は2023年)。

ぶどう栽培発祥の地

甲州市勝沼には甲州の起源を伝える2つの伝説があります。ひとつは、奈良時代の高僧行基が修業中、夢の中にぶどうを手を持つ薬師如来が現れ、これを木彫りにして大善寺(甲州市勝沼)に安置したところ、ぶどうの樹を発見。これを葉草として育てて村人に伝えたのが「甲州」となったという説。もうひとつは、鎌倉時代前期の1186年、勝沼の両宮勸解由が自生の山ブドウと異なる蔓性の植物を発見。自宅に持ち帰り、栽培の工夫を重ねて増やしたのが今日の「甲州」になったという説です。

江戸時代には、勝沼のぶどう「甲州」は江戸でも有名でした。勝沼は甲州街道の宿場町として栄えていましたが、名産の甲州ぶどうは街道を行き来する旅人に大人気でした。

養蚕からぶどうへ

明治時代の山梨県は国内有数の絹糸の産地であり、峡東地域でも養蚕が盛んに行われていましたが、養蚕業は1960年前後から衰退しはじめます。養蚕をやめた多くの農家は果樹農家に転身し、桑に代わってぶどうなどの果樹を植えたので、峡東地域のすみずみまでぶどう畑が広がっていきました。ぶどうの栽培技術もさらに進歩し、勝沼のぶどう研究の第一人者・土屋長男氏が甲州の植物生理に合わせたX字型整枝を考案。これが峡東地域だけでなく、広く普及しています。X字型整枝は上から見ると四方に伸びた4本の主枝がX字のように見えます。



1 清白寺は、かつては周囲を水田や桑畑に囲まれていましたが、今ではぶどう畑の中に浮かぶような風景になっています。2 蚕を飼っていた屋根裏の採光と換気のために突き上げ屋根を設けた切妻造りの住宅。

世界が甲州に注目しています

「甲州」は日本で最も古くから栽培されている日本固有のぶどう品種で、800~1000年の栽培歴があると推定されています。日本ワインの原料として一番多く使われているぶどうが、この甲州です。甲州は長年生食用として栽培されてきましたが、山梨の生産者たちが懸命に栽培や醸造に努力を続けてきた結果、今ではぶどうの個性をさまざまに表現したワインが造られています。シュール・リーで味に厚みを持たせる、甲州の柑橘香を引き出す、発酵や育成にオーク樽を使う、かもし発酵(オレンジワイン)などが代表的で、素晴らしいスパークリングワインも造られています。2010年には甲州がワインの国際的審査機関OIV(国際ぶどう・ぶどう酒機構)に登録され、EU市場における甲州ワインのプロモーションも功を奏して、ワイン品種として世界に知られるようになりました。繊細で爽やかでうま味がある甲州ワインは世界が注目するワイン。EUだけでなくアジア諸国にも輸出され、コンクールの受賞も増えています。



ぶどうに合った気候と棚栽培の発見

江戸時代の初期、甲斐徳本という医者がぶどうを竹で作った棚に架ける画期的な栽培法を考案しました。通風に優れた棚栽培は乾燥を好むぶどうの生育に適しており、これが日本におけるぶどう栽培の原型になりました。明治中期に竹が針金に代わると、地形を選ばずぶどう棚が作れるようになり、平地から山の斜面までぶどう棚に覆われた美しい風景が広がっていきます。このあたり一帯がぶどう

産地として発展したのは、扇状地で水はけがよく、朝晩の気温の差が大きい気象がぶどう栽培に適していたからです。ただ、東西に流れる日川が何度も氾濫したことから、明治末期以降に土砂流出を防ぐ石積みの治水施設や、上流に土砂止めの堰堤を作るなど努力を重ねました。これにより日川沿いの田畑は水はけのよい砂地に変わり、ぶどう畑への転換が進みました。



1 勝沼堰堤は甲府盆地への土砂流出を防ぐために設けられました。2 「甲龍」と名づけられた現存する最も古い甲州は樹齢100年以上です。



峡東地域には、甲州市に36、山梨市に12、笛吹市に12のワイナリーがあり、多くのワイナリーが試飲や見学を受け入れています。ぶどう畑の美しい風景を楽しみながら、ワイナリーをめぐるごみませんか？

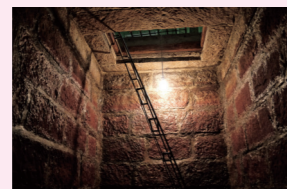


ワインの本場フランスに派遣された高野正誠(左)と土屋龍憲(右)の2青年は勝沼のシンボルです。

ワイン醸造発祥の地

日本でワイン産業が生まれたのは、明治に入ってからです。日本最初の民間ワイン醸造会社は一大ぶどう産地の勝沼で誕生しました。それが1877年8月に誕生した大日本山梨葡萄酒会社(メルシャンのルーツ)で、この年の10月、本格的なワイン造りを伝習するため高野正誠と土屋龍憲の2人の青年をフランスに派遣します。2人は1879年5月に帰国し、その年の秋には地元名産の「甲州」でワイン造りを始めました。

ワイン造りで先進的な動きが始まった勝沼では、ぶどう農家による自家消費用の個人醸造も盛んに行われていましたが、第二次大戦中に個人醸造者を整理統合して地区単位の共同醸造組合が設立され、ぶどう農家は地域の共同醸造場にぶどうを持ち寄って、皆で自家消費するワインを造るようになります。共同醸造場の多くは1963年に酒税法が改正されるとその多くは法人組織化され、ワイン造り専門のワイナリーになりました。こうして峡東地域は60を超える日本一のワイナリー集積地に発展したのです。



130年以上の歴史を持つルミエールには、1901年に設けられた石造りの地下式発酵槽が保存されており、現在も一部がワイン造りに使われています。登録有形文化財。

独自のワイン文化

ぶどう農家自身が100年前からワイン造りにかかわってきたこの地域には独特のワイン文化が生まれました。ワインは農家にとって生活に密着した身近な飲み物で、冠婚葬祭でも、日常でも、一升瓶のワインを湯飲み茶碗で飲んできました。ワイン文化は神事にまで及び、笛吹市の一宮浅間神社には地元のワイナリーの多くが一升瓶ワインを奉納しています。



1 一升瓶の宴会 気の合う仲間との飲み会も一升瓶のワインで。2 一宮浅間神社にはワインが奉納され、御神酒にもワインが使われる。

歴史と伝統を知る!



宮光園
大日本山梨葡萄酒会社の流れをくみ、宮崎光太郎が創業した宮光園は資料館として修復整備され、貴重な映像資料や写真などを展示しています。20歳以上200円/20歳未満・学生100円 9:00~16:30 火曜休/祝日の場合は翌日 ☎0553-44-0444



ワイン資料館
1904年に建築された宮崎第二醸造場をシャトー・メルシャン ワイン資料館として一般公開。実際に使われていた醸造器具が展示されており、日本ワインの歴史が学べます。入場無料 9:30~16:30 火曜休/祝日の場合は翌日 ☎0553-44-1011



ぶどうの国文化館
甲州街道勝沼宿の風景や明治時代のワイン醸造風景などを等身大の人物により紹介。昔のぶどう栽培・ワイン醸造用具も展示されています。入館無料 9:00~17:00 月曜定休 ☎0553-44-3312



甲州ぶどうはコーカサス地方に自生していた欧州系のぶどうがシルクロードを通して中国に渡り野生種と交配して誕生した(DNA解析で証明)。

個性豊かなワイナリーを訪ねよう

日本初の民営ワイナリーの流れをくむワイナリー

シャトー・メルシャン 勝沼ワイナリー



左の白い建物がワインギャラリー。右がワイン資料館。

日本初の民間ワイン会社「大日本山梨葡萄酒会社」をルーツとする長い歴史を持つ一方、常に先陣を切って日本ワインの新境地を切り拓いてきたワイナリー。天気がいい日はガーデンでワインやカフェメニューを楽しめます。 ☎0553-44-1011



まるき葡萄酒



素敵な古民家ワイナリー

養蚕農家の特徴を持つ古民家を生かしたワイナリーは、勝沼地域ならではのものです。和モダンなテイストにリノベーションした空間で甲州ワインの試飲を楽しむのは格別です。

丸藤葡萄酒工業



☎0553-44-0043

勝沼醸造



☎0553-44-0069

原茂ワイン



☎0553-44-0121

くらむぼんワイン



☎0553-44-0111

大日本山梨葡萄酒会社解散後、1891年(明治24年)に土屋龍憲が設立したマルキ葡萄酒が前身で、現存する日本最古のワイナリー。醸造所裏手の自社畑では羊を飼って不耕起栽培に取り組んでいます。 ☎0553-44-1005

日本遺産 葡萄酒畑が 織りなす風景

山梨県峡東地域MAP

